


魅力ある地方大学の実現に向けて

2020年9月2日
フューチャー株式会社
代表取締役会長兼社長グループCEO
金丸 恭文



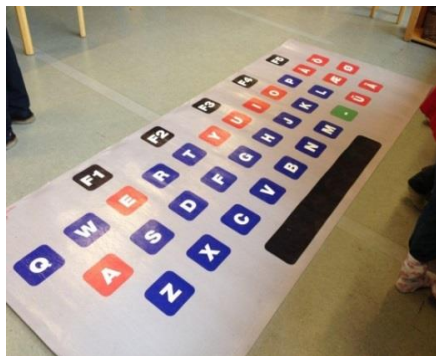
第2に、デジタル市場に関する論点。GAFAに対抗できる若者や日本企業の台頭への期待を込めて、ルール整備は、本来、イノベーションを阻害しない形で海外事業者と国内事業者がイコールフットイングとなるようなルールとすべき。・・・（割愛）

最後に、GAFAへの対応もさることながら、日本の子供たちの中から、将来、NEXT GAFAが誕生していることを願う。そのためにも、高速大容量ネットワークに接続された双方向の教育が可能なICT環境整備は長期的にも最も有効な未来投資だと思う。東北地方、九州地方のほとんどの県が4年制大学進学率は30%台。私の郷里の鹿児島は最下位の32%。総理のふるさと、山口県も官房長官の秋田県も30%台で、最下位グループ。ICT環境を整備すれば、離島や地理的不利な地域においても物理的な移動時間やコストもかからないので、プログラミング教育や英語の教育も可能。先生と生徒間も双方向のやりとりが可能で、子供の状況に応じて一人ずつカスタマイズされた教育も実現できる。先生の働き方改革にもつながる。農林水産業のICT化は地域にやりがいのある仕事を創出することが可能。今後はICTに長けた担い手が不可欠。地方自治体任せにせず、国として大規模な取組として、1人1台のコネクテッドICT環境の整備をコンテンツの充実と民間人材活用のソフト面の対応をセットにして御検討をお願いしたい。

デンマークのデジタルターザンプログラム

FUTURE

体を動かすこと + ITを利用する、を組み合わせたプログラム



キーボード上を文字を探してジャンプ



ブラインドタッチの習得

平均台終わったら、足し算の問題に答える



足し算を学びながら、タッチパネルに慣れる



①地域内格差

義務教育は住んでいる場所近くで受けられるが、県内交通が不便な場所の生徒は高校進学から郷里を離れざるを得ない

②地域の発展と人生価値向上のアンマッチ

- 多くの学生は県外の大学へ（就職も県外の確立が高い）
- 県内の大学を選んだ学生は卒業後に就職先がない（よって公務員志向にならざるを得ない）
- これでは地方創生は実現できるわけがない

③データサイエンス、ICT人材は有力な強化分野だが県外流出を加速させるだけでは意義に欠ける

-県内に活躍の場創出とセット

-農林水産業のICT化は、企業のシステム作りより数学的で面白い

④魅力的な仕事は自分たちで創造すべき

起業促進、新事業創造（リスクを取れる人材育成、失敗を許容する環境作り）

魅力あふれる地方大学へ①

①インターネットやスマホなどの技術革新は、弱者、条件不利な者が有効活用すれば、逆転の武器になる。一見、条件不利な者が不利を克服し希少価値に転換できる可能性あり。

(強者が活用すれば格差が広がる)

②これからの人材はDX知見を有している方が明らかに貢献大。

③最も不利な地域をモデルにして、不利を解消すれば先が見える

魅力あふれる地方大学へ②

④大学進学率向上のために、オンライン教育サービスを域内条件不利な者に提供すべき。（特に国立大学のミッション。また、高校のオンライン教育も支援する）

⑤都市の下請けからの脱却、代理店業務を超えた付加価値創出を目指すべき。

（単純な事務の仕事は限りなく減る）

⑥よって、地方の大学は自らの存在意義を見出し、地方社会にインパクトを与える人材輩出が使命。

魅力あふれる地方大学へ③

- ⑦多くの地域は、農林水産業依存度が高い。
- ⑧地方の大学は、農業高校、水産高校、工業高校、高専を含めて、DX化牽引のリーダーシップを発揮すべき。
- ⑨地域内、希少価値の総点検と全てを輸出する可能性を追求。（グローバル化）
さぬきうどん、やきいもetc
- ⑩地域経済発展のために、DXとグローバル人材育成、起業家輩出は最重要イシュー。